

Frente

フレンテ

フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

vol.42
2010.7

Report

フォルティッシモ

男女共同参画強調月間 *ff*
フレンテまつり

香山リカさん 講演会
「自分らしく
生きるための処方箋」

三重県内男女共同参画
連携映画祭 2010

男性講座

「オトコの介護を考える
～老後を自立して考えるために～」

「自分らしく」生きる。

コラム

シリーズ 現代社会を生きる①
「生涯(夫婦)賃金と生涯支出①」
フレンテみえ企画・運営サポーターの窓
三重県の条例ができてから10年。
「男女共同参画推進条例を
より身近なものとするために」

Essay

子育てパパのススメ
安藤 哲也 さん

チャレンジ!
フレンテナ人々

『THEダイエット!』

関口祐加 監督インタビュー

三重えうぶんシネマスクエア2010
で上映 & 監督ゲストトーク!



フレンティ

男女共同参画強調月間

フォルティッシモ

Report

フレンテみえでは、内閣府の主唱する男女共同参画週間(6/23~29)にちなみ、6月を「男女共同参画強調月間ff」とし、さまざまな事業を行っています。



6/4(金)、5(土) フレンテまつり

2010年のフレンテまつりは?

毎年6月の男女共同参画強調月間に開催しているフレンテまつりも今年で7回目になりました。フレンテまつりは参加団体の活動発表の場であり、さまざまな団体が交流する絶好の機会です。今年は10以上の新規団体を含め、過去最高となる48団体が参加しました。

年々盛り上がっています!

実行委員会では、より多くの来場者のみなさんに男女共同参画を知ってもらうと共に、楽しんでいただける企画を工夫しました。

野外での親子で楽しめる催しもより充実し、世代を越えて参加できるおまつりに約2,500人が来場されました。

7月4日の反省会では、来年度のフレンテまつりの参加者に男女共同参画のメッセージが一層伝わるような仕掛けについて、意見交換を行いました。

ホームページには、写真とともに報告を掲載します。こちらをご覧ください!



実行委員会メンバー



展示



フリーマーケットなど



体験



ワークショップ

最新版「男女共同参画って何?」パネル

フレンテまつりでご紹介!

~フレンテみえ企画・運営サポーターが大活躍~



男女共同参画強調月間ffの期間に、まずは身近な課題から男女共同参画について考え、もっと知っていただこうとパネルプレゼンテーションを行いました。

展示したパネルは男女共同参画の現状を表わしたオリジナル。日常のなにげない場面を見て、「あなたはどう思いますか?」と男女共同参画の視点で呼びかける内容です。何度も会議を重ね、提示する最新情報と参考資料の収集とともに、より分かりやすく効果的に投げかけるために掲載する文言やイラストについて議論し作成しました。

当日ご覧いただいた方から「子どもが大きくなったときに今の課題が解決し、昔の話になっているといい」などの感想がありました。パネルは今後もフレンテみえの啓発教材として県内各地域への貸出や出前フレンテで活用していきます!

2011年もお楽しみに!

よんやんこしん
こしんこしんこしん



6/5

土

自分らしく
生きるための
処方箋

“生きづらい”人が増えている現代社会。講師に精神科医でありメディアや数々の著書で知られている香山リカさんをお迎えし、自分らしく生きるためのお話をしていただきました。

— 香山さんの講演内容から一部をご紹介します! —

「ゆとりがない」現代社会を「自分らしく生きる」ためには

昔はどんな仕事でも頑張れば認めてもらえ、誉めてもらえると言われていたんです。でも、昔と現代では時代背景が違って、上司も自分のことで精一杯で、部下のことを誉める心のゆとりがなくなってきています。頑張りすぎてうつ病になる人が増えてきているんです。今はみんな心にゆとりがないんですね。ゆとりがないので周りが見えないし、相手を評価できない。自分も認められない。努力しても誉められない、評価されない時代です。

親と子の関係にしても、会社の上司部下の関係にしても、心にゆとりがないと相手を誉められないし、思いやる言葉も出てこないですね。

最近では、本当にうつ病は身近な病気になりました。誰もがゆとりがなく、ストレスを抱えて生きています。

ゆとりを持つためにはまず、「自分を誉めること」です。でも、真面目な人ほど自分に厳しいのでうつ病になりやすいんです。

例えば、患者さんの中に「自信がない」という男の子がいました。「自分には何もない」と言う彼にもすごい趣味があって、大きな水槽で熱帯魚を飼っていました。でも、「インターネットで探せば俺よりすごいやつなんかもっと沢山いる」なんて言うんですよ。インターネットという広い世界で他人と自分を比べて、自分を価値のないものだと思ってしまうんですね。便利な携帯電話やパソコンによって時間と距離が縮まる一方で生まれるストレスです。他にも食品偽装問題など私たちの生活の根底部分を直撃する考えられないような裏切りも明るみに出たりしています。周りが信用できにくくなって、不安ばかり膨れ上がり、疑心暗鬼になってストレスを抱え、ゆとりをなくしてしまっています。

自分を認め、相手も認める

この状態から抜け出すには相手と誉め合う。また、自分を認め、誉める。思い上がりでもいいんです。「井の中の蛙」でもいい、大いに有頂天になって自分にご褒美をあげるといことが大事だと思っています。

自分自身をケアしていたわることゆとりを失わないようにする。そうすることが、他の人たちへのいたわりに繋がります。「ありがとう」と感謝の言葉をかけられる自分になりたいですね。

香山 リカさん

精神科医・立教大学現代心理学部映像身体学科教授。

東京医科大学卒。学生時代より雑誌等に寄稿。その後も臨床経験を生かして、新聞、雑誌で社会批評、文化批評、書評なども手がけ、現代人の“心の病”について洞察を続けている。専門は精神病理学だが、テレビゲームなどのサブカルチャーにも関心を持つ。著書「おんなはみんな『うつ』になる」「しがみつかない生き方—『ふつうの幸せ』を手に入れる10のルール」「くらべない幸せ～誰かに振り回されない生き方～」等多数。

予告!

11/12(金)、13(土) 男女共同参画フォーラム～みえの男女2010～

男女共同参画フォーラム～みえの男女2010～ 基調講演 講師の片山善博さん(慶応義塾大学教授、前鳥取県知事)に、フレンテみえにお立ち寄りいただきました。フォーラムでは片山さんから、女性の管理職登用や男性の育児・介護休業制度整備のお話など、知事時代の取組内容や、ご自身の子育てのご経験などを通して基調講演をしていただきます。

また、基調講演後のシンポジストとしてもご登壇いただく予定です!

フォーラムの参加受付は9月からスタート。たくさんのご参加をお待ちしています。

片山善博さんが「フレンテみえ」に!

フレンテみえでは、毎年11月に「男女共同参画フォーラム」を開催しています。2010年は「三重県男女共同参画推進条例」が制定されてから10周年の節目の年。三重県のこれまでの取組を振り返るとともに、これからの前進に必要な課題について、ワークショップ・講演・シンポジウム等を通して考えます。どうぞご参加ください!

三重県内男女共同参画連携映画祭 2010

つながる ひろがる メッセージ

Report



「映画で男女共同参画を考えよう!」と始まった連携映画祭。4回目となる今年は桑名市、津市、そして東紀州地域から尾鷲市と御浜町(地域連携で今年は尾鷲市開催)の4市町が加わり連携の輪がさらに広がりました。受付開始早々に満席になる会場もあり、「連携した

今年も、たくさんのご参加ありがとうございました!



広報が効果的だった」など、市町担当者の報告からも連携映画祭が少しずつ県内各地に浸透してきたように感じます。

今年もたくさんの方に映画だけでなくパネル展やアフター・トークなどを通して「男女がともに生きるヒント」を投げかけました。

6/19

「おくりびと」 志摩市

人の「死」という厳粛な事実を通して、「生」について強く考えさせられる映画。クライマックスシーンでは涙されている方の姿も多くみえました。「色々な意味での偏見が減った」「すべての人が生まれた時から死ぬまで必要とされる世の中になってほしい」「生きるということをもう一度よく考えます」などの感想をいただきました。

6/27

「アイスエイジ3」 津市

拾ってきた恐竜の卵を、自分が父親として育てると宣言した主人公シド。ママ恐竜からシドを救出する仲間たちの生き方を通して「自分らしく生きること」を子どもたちに投げかけました。「楽しかった!」という子どもたち、うまく言葉にはできなくても、感じ取るものがあったようです。親子揃って楽しんでいただきました。

7/3

「ココ・シャネル」 四日市市

四日市市男女共同参画センター「はもりあ四日市」

それまでの常識を覆し、女性が自分のために着るシンプルで活動しやすい洋服を生み出したココ・シャネルの物語。満席の会場からは「ココ・シャネルの強さと信念に感動です。できれば私もそのような生き方をしていきたい」「昔からの固定観念を崩していこうとする勇氣には尊敬の念を覚えた」といった声が聞かれました。

6/12

「西の魔女が死んだ」 尾鷲市

共催:御浜町・フレンテみえ

主人公のまいが、自然の中でおばあちゃんとの生活を通して「自分らしさ」を取り戻していく物語。「自分のことは自分で決める」というメッセージを感じる作品でした。参加者からは「暮らしの中で大切なことに気付けたように思う」「祖母が主人公に対して、自然の中で自立を促していく様子が素晴らしい」といった感想をいただきました。

6/20

「幸福な食卓」 伊賀市

これまでに3回映画祭を行った実績から参加する年齢層を予測し映画を選定しました。アフター・トークでは「それぞれのタイミングで選択するいろいろな生き方がある良いのかな」などの意見があり、食卓を囲む家族を題材にした映画から家族の存在、家族との生き方について、自分の経験に照らし合わせながら考えていただきました。

6/27

「60歳のラブレター」

名張市(名張市男女共同参画センター)

3組の熟年カップルのそれぞれのパートナーへの思いを描いた映画。「今までのことを思い出し、これからの夫婦のあり方を改めて見直すきっかけとなった」「家族の形態が変化し、共稼ぎが普通である今の世代が、これからどう家庭を作り、どう生きていくのかを考えさせられた」との感想をいただきました。

6/13

「60歳のラブレター」 鈴鹿市

鈴鹿市男女共同参画センター「ジェフリーすずか」

50~60代の方が中心で、女性グループやご夫婦で鑑賞される方が多かったです。上映後のアンケートでは「夫婦のあり方や男女共同参画の必要性を考えさせられた」「さまざまな夫婦の姿に感動した」などの感想が寄せられ、映画に登場する3組の男女に、ご自分の人生を重ね合わせて考えていただく機会となりました。

6/26

「ディア・ドクター」 亀山市

失踪する二七医者をかまかせながら、一人で息子を育てている母、田舎で娘を思って一人で暮らす母やその母を思い東京で多忙な医者として暮らす娘など、それぞれの年代の女性の生き方や思いが切なく映し出されている作品。「キャストのセリフが少ないため、一層それぞれの立場の思いや生き方を考えさせられた」などの感想がありました。

6/27

「60歳のラブレター」 伊勢市

参加者は60代の女性が多かったが、夫婦で参加される方もたくさんありました。映画では3組の男女の物語を通じて、女性の方には、それぞれの女性の生き方、男性にはそれぞれの男性の生き方に共感したとの感想が多くありました。全体的には、夫婦のあり方やこれからの人生を見直すきっかけができたとの意見が多く寄せられました。

7/10

「ミス・ポター」 桑名市

ピーターラビットの原作者の生き方を描いた作品。封建社会のイギリスで、上流階級の女性が仕事を持つなどあり得ない時代に、夢をあきらめず自分の道を貫いたポター。参加者からは「自分らしさを貫く生き方に感動した」「何度かこの作品を観たが男女共同参画の視点という新たな視点に気付けた」といった感想がありました。

チャレンジ!
フレンテナ人々

三重そうぶん
シネマスクエア2010で
上映&監督ゲストトーク

『THEダイエット!』 関口祐加監督に聞く!



“人と違うものを作りたい” 映画界で活躍する女性の監督はまだ数少ない存在です。9月11日(土)、三重そうぶんシネマスクエア2010の2日目、『THEダイエット!』上映&ゲストトークでお越しいただく監督・関口祐加さんはオーストラリアで子育てをしながら、今回のコメディ・ドキュメンタリーという新しいジャンル、そして自らを被写体にした映画製作に挑んだシングル・マザー。国内外で高評価された今も「お客さんを引き込む映画」を追い求め、常にチャレンジ精神で表現したいと新作を撮影中。関口さんに故郷・横浜でお話をうかがいました。

「思い残すことのない人生を」
体を張った監督の挑戦!

—監督という職業は小さい頃からの夢?

映画は大好きでしたがオーストラリアへの留学は国際関係論の学者を目指すためでした。でも授業でドキュメンタリー映画を観て感情を一瞬で引き出す映像の持つ力の凄さに圧倒され、それが「監督への道」に突き進むきっかけになりました。

—留学や仕事への考え方はご家庭の影響もあつたのですか?

1年の半分は海外だった船乗りの叔父の存在で外国への憧れはずっとありました。また震災や戦災に遭った祖母は「ものを持っていてもダメ」という考えで、「頭に入れたものは、誰にも盗られない」という意識が強かったです。両親もずっと米屋を営んでいたので自立して働くことは、当たり前でした。

ですから、職業選択など自分の人生のことは、すべて自分で決断してきました。自分の人生の分岐点ではいつも本能を信じて決めてきました。人生、誰にでもあるチャンスをどの位自分で気づくことができるか、だと思えます。

—自分を信じて選択してきたんですね。

そうですね。自分を信じて決断を下す、というのは、まさに両親の生きざまでもありました。ただ、人生、すべてが、上手くいくとは限りませんよね。でも、自分が決断を下したのなら、例え失敗しても後悔は、ありません。むしろ、しなかったことに対して後悔が残る。母は、そんな私のことを<猪突猛進>だとよく言います。よしっ、こうしよう、と決めたら、必ず行動するという生き方をしてきました。結果は、当然ながら、死んだかもしれないということも含めて、波瀾万丈の人生になりましたが(笑)。

—今回の映画を撮るきっかけは?

2001年、父が「いい人生だった、もう思い残すことはない」と言って突然逝ってしまったんですね。その時、つくづく私もそう言って死ぬのか、深く考えさせられました。当時結婚、出産を経て監督業を続けることに理解を全く示してくれなかった夫に対してストレスを募らせていました。父の死に背中を押されるように、私は夫と別居し、シングル・マザーとして映像の道に戻ることを決意したんです。

ピザのドカ食いで人生最悪の肥満になりましたが「このやばい状況は、絶対に映画になる」という映像作家としての直感も働きましたよ。以前にアン・リー監督から「コメディの才能がある」と言われた言葉も蘇って、コメディ・ドキュメンタリー映画を作る挑戦が始まったんです。

—映画業界での女性の立場はいかがですか?

やはり日本だけではなく、どこでもまだ男性が中心です。女性の監督は日本監督協会では、男性監督600人、女性監督は、20人と極端に少ないです。ただ若い世代はもう“女性監督”として注目されるのではなく、作品の質で認められたいという考え方が、大半になってきていると思います。

—最後にこれからのチャレンジについて聞かせてください。

今は横浜で認知症の母親を被写体に新作『此岸(しがん)、彼岸』を撮影中です。そして、映画のプロセスを映像ブログとして発表するというやり方に挑戦しています。お陰様で、ブログのアクセスは、月間で4000人を超えています。監督としては、やはり一人でも多くの人に見ていただきたいという思いが強いです。とても心強い結果です。映画が完成した時の観客動員数につながればいいなあ、と考えています。

関口 祐加 監督

1957年横浜生まれ。20代で渡豪。1989年『戦場の女たち』で監督デビューし、ドキュメンタリー映画に関わり続ける。『THEダイエット!』は10数年ぶりの第3回監督作品。約30年ぶりに帰国し、現在は認知症の母親を被写体に新作『此岸、彼岸』を撮影中。国内外ともに全作品の受賞数多数。11歳の男の子のシングル・マザー。
☆新作の映像ブログ
<http://jisin.yukasegiguchi.com>



関口さんありがとうございました。映画上映&ゲストトーク、そしてシネマカフェでの交流でさらにお話をうかがえるのを楽しみにしています!

映画をもっともっとたのしもう! 三重そうぶんシネマスクエア2010

津市初上映の『女の子ものがたり』『THEダイエット!』など3日間で8作品の映画上映のほか、ゲストトーク、ハンドマッサージやジェルネイルがプチ体験できる自分磨きブース、限定ランチマーケットや映画解説など盛りだくさん!
『THEダイエット!』上映後はスイーツとダイエットの意外な関係に気づける!?カフェを限定開催します。映画を観た後の余韻を関口監督と一緒に共有しましょう!

フレンテみえでもチケット販売中!

数に限りがあります、どうぞお早めに!

9/10 上映『東京オリンピック』の
ゲストトークにシンクロスイマー・オリンピック
メダリスト 武田美保さんが登場です!

夢や希望を持って選手としてチャレンジし続けてきた経験と、選手生活を終えてからも新たな目標を探し続けている一人の女性としての経験をお伝えし、皆様が無気になれるお手伝いができたらと思います。

スポーツの分野で指導的立場にいる女性もまだ少ない状況です。スポーツにおける男女共同参画についても映画を通して考えましょう!

9/10 (fri.)
~12 (sun.)
前売り ¥500



働き盛りのパパが
楽しく育児に関われる方法

イクメン

特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン代表理事

安藤 哲也 さん

世はイクメン・ブーム。「育児に積極的に関わりたい！」という男性は確実に増えていますが理想と現実のギャップはまだ深いようです。平日は残業で帰宅時間が遅くほとんど育児ができないパパたちは依然多く、ファザー・リング・ジャパン(以下FJ)のセミナーでも「週末の短い時間で、子どものハートをつかめる方法を教えてください！」なんていう質問が出ますが、そんなものは到底ありません。子どもと良好な関係を築きたいのであれば労を惜まず、毎日少しの時間でもいいから子どもに関わることです。週末だけ「遊ぼう」と子どもを誘っても、1歳や2歳の子には「うえ〜ん(泣)、ママがいい〜」と逃げられるだけでしょう。週末オンリー育児の成果はあまり期待できないのです。

そうは言っても早く帰れないパパはどうすればいいか?「朝の育児」がオススメです。疲れていてシンドイとは思いますが1時間早く起きて子どもと向き合ってみましょう。私の知人のパパは妻の産後半年で夫婦の危機に陥りました。仕事にウェイトを置きすぎてママの堪忍袋が切れたのです。そこで彼は考えました。深夜0時に帰っていたのを22時に早めても子どもが寝ていたら育児はできない。だったら朝早く起きてやろう。そうだ、朝風呂に一緒に入ろう!と翌日から早速始めたそうです。そのうち習慣化し、子どももパパと入るのが楽しみになり親子の愛着が増しました。またパパ自身の生活も規則正しくなり、早く出勤するようになって仕事の能率も上がったそうです。どうでしょう、皆さんも朝の時間を活用してみませんか?

さて、もう一つ忙しいパパたちにやってほしいことがあります。それは、「ママを支える」ということです。家事を手伝うといったことではありません。日々、大変な子育てをしてくれている妻に感謝し、常にねぎらいの言葉をかけてあげることが大事なのです。たとえば夜遅く帰ったとき子どもが寝てしまっている、ママが起きていたらママの話の聴いてあげてください。特に専業ママは一日中もの言わぬ赤ちゃん、聞き分けのない幼児と一緒にいてヘトヘトに疲れています。でも子どもの成長をパパに報告したいのかもしれませんが、だから「ねえねえ、今日ね…」と語りかけてきたら、きちんとその言葉に耳を傾けてあげて欲しいのです。パパがちゃんと受け止めてあげれば、「認めてもらえた」と安心し、ママの気持ちは満たされて夜ぐっすり眠れます。そして翌朝、笑顔で子どもに向き合えます。そのママの笑顔こそが子どもの情緒を安定させ、子どもの健やかな精神を育むのです。つまり、ママを支えることが立派な「間接育児」になっているのです。ぜひパパたちは、この視点を持ってください。子どもを風呂に入れる、キャッチボールをする、遊園地に連れていくだけが育児ではないということです。ママに感謝し、ママを積極的に支えることで夫婦の絆も強まります。当然、そういう夫婦には二人目だって生まれやすくなるでしょうし、何ととっても家庭が安定していることで仕事にも身が入ります。そうなれば、働き盛りのパパがもっと仕事で輝けるし、家族みんなもハッピーになれるのです。

執筆者紹介

安藤 哲也 さん 特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン代表理事



1962年東京生まれ。明治大学卒業後、出版業界やIT企業など数々の企業で働きながら子育てを楽しむ。2003年NTTドコモの電子書籍事業へ参画。2004年楽天ブックスの店長に就任、楽天クロスメディア事業に従事。2007年10月退社。2006年11月、父親子育て支援・自立支援事業を展開するNPO法人ファザーリング・ジャパンを立ち上げ、代表となる。現在3児の父親で、週末はPTAや学童などの地域活動や、全国でパパの絵本の読み聞かせや、講演会活動を行う多忙な毎日。2008年内閣府男女共同参画局「ワーク・ライフ・バランス シンポジウム」分科会パネリスト。著書『パパの極意』(NHK出版、2008年3月出版)等。URL <http://www.fathering.jp/> フレんテみえでも男性講座講師としてお越しいただいています!

たのsea!うれsea!大航海 ～パパをねらいうちっ!～ 8がつ29にち(日)

フレンテみえの男性講座は、世代別に開催しています。

今年の子育て世代向け男性講座は一味ちがいます!

男性の家事・育児参画のススメに加えて、地域で活躍していくパパ達の応援を目的とした今回の講座。企画の段階から、地域で活動をしている方たちや、県・市の行政職員と一緒に講座を企画しています。

大航海で「お宝」GET!?

親子でお弁当を作って、わくわくヨット体験へ!その後は、親と子に分かれて楽しいワークを行います。パパたちには、家事・育児への関わり方のヒントや、今後地域で楽しい企画を作る“モト”を…。子どもたちには、これから生活していく上で大切な事を学ぶ時間を…。親子ともにこの「大航海」でかけがえのない「お宝」を得るチャンスです。講座後、地域で活躍されるパパたちが増えるかも!?今年の男性講座にどうぞご期待ください。

大航海の様子は、次回情報誌Frente vol.43でご報告します!お楽しみに♪

※ 申込多数のため締め切りました。
ありがとうございました。



5/16 日 オトコの介護を考える ～老後を自立して迎えるために～

Report

「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」の事務局長であり、立命館大学産業社会学部教授である津止正敏さんを講師に迎え、実際に介護している男性や、プレ介護者を対象に講座を行いました。

460万人の要介護者がいる現在、介護に携わる人のうち3人に1人が男性となっています。男性介護者の中には「60代の息子たちが80代の親の介護」「30～50代の息子たちは主たる稼ぎ手として働きながら介護」「年老いた夫による妻の介護」といった予想だにできなかった介護に大きなストレスを抱え、したくない家事をしなければならない現状があります。

津止さんからは介護者への支援として、社会からのさまざまなサポート、地域とのつながりをつくっていくことなどが重要であるといったお話をいただきました。



執筆者 石川 謙二さん

1963年津市に生まれる。一般企業で営業職を務めながら、内閣府男女共同参画ヤングリーダー、NPO法人日本ファイナンシャルプランナーズ協会会員、津市学童保育連絡協議会顧問などさまざまな社会活動にも参画している。

コラム シリーズ' 現代社会を生きる1

生涯(夫婦)賃金と生涯支出①

景気が落ち込んでおり、所得が減少し、子育ての環境もいっそう厳しく、どの世帯もワーク・ライフ・バランスの見直しが迫られています。仮に夫妻とも現在30歳の年齢で、未就学の子どもが2人いるフレンテ太郎・花子さんの世帯のライフプランニングを考えてみましょう。

今回は支出の側から、人生の4大資金、生活資金、教育資金、住宅資金、老後資金を計算してみましょう。

まず、①生活資金ですが、夫婦が65歳になるまで(年金生活になるまで)、月平均27万円(全国平均)×12ヶ月×(65歳-30歳)=1億1340万円になります。

次に②教育資金ですが、これは一般的にいわれる1人約1000万円としますと、子どもが2人ですので、約2000万円必要になります。

3番目の③住宅資金ですが、土地が1000万円、建物が2000万円の住宅を全てローンで購入した場合、30年ローン、金利2.5%で、約4000万円の資金が必要になります。

最後に、65歳以降の④老後資金ですが、公的年金を除いて、少しゆとりある生活を考えると、75歳(男性の平均寿命)まで2人生活として10万円×12ヶ月×10年=1200万円、妻の85歳まで(女性の平均寿命)の1人生活7万円×12ヶ月×10年=840万円が必要になります。

①から④を合計すると**1億9380万円**が、生涯の支出として想定していかなければいけません。

ワーク・ライフ・バランスの実現のために何が必要でしょうか? 次回、生涯夫婦賃金を通して一緒に考えましょう。



フレンテみえ 企画・運営サポーターの窓

フレンテみえ企画・運営サポーターが男女共同参画の視点でみた身近なことをコラムでお届けします。

～男女共同参画推進条例をより身近なものとするために～

執筆
者
川口 節子さん
企画・運営サポーター



三重県男女共同参画推進条例づくりの取組がスタートするまで、「条例＝行政が作るもの」とのイメージがあり、あまり関心を持っていませんでした。しかし、この条例は私たちの生活に深く関わるもので、これからの男女共同参画社会を築いていく大きな柱となるものです。それを真に身近なものとするためには受身的に待つのではなく、積極的に議論し、県民の声を反映させようと日頃活動を共にしている仲間と相談しました。

その結果、三重県女性センター（現三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」）で開催していた「女性フェスティバル」歴代委員長が発起人となり、広く県民に呼びかけ「条例に県民の声を反映させる会」を発足させました。

会の活動は条例制定に向けて設置された懇話会の傍聴と内容検討など。懇話会で話し合われなかった問題点、日常生活や日頃の活動の中で感じていることを出し合っ、議論を重ねた結果を県と懇話会へ「条例に対する期待とお願い」「具体的な提案」として提出しました。その後も県主催の公聴会で提案し、条例が上程された9月議会を傍聴し経過を見守りました。「条例を成立させたい」という熱い思いを共有して活動した当時を思うと、今でも胸が熱くなります。

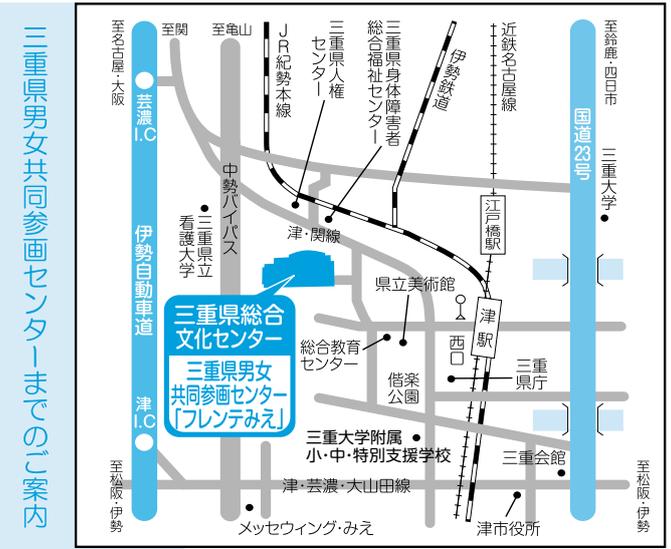
一連の活動は国立女性教育会館（NWEC）の「女性学・ジェンダー研究国際フォーラム」ワークショップで発表。用意した資料や椅子が足りなくなるほどの参加者を得て熱気あふれる会場になりました。発表内容に対して「三重県がうらやましい」という声がたくさん寄せられました。

今年は第2次基本計画策定の年です。私は今度は図らずも審議会委員として関わることになりました。より実効性のある三重県らしい基本計画となるよう取り組んでいきたいと考えています。



三重県男女共同参画推進条例

男女共同参画フォーラム～みえの男女2010～
「第2次男女共同参画基本計画策定に向けた県民の意見を聴く会」を開催！（11月12日開催予定）
みなさんの声を基本計画に反映させましょう！たくさんのご参加をお待ちしています。



休館日 毎週月曜日
年末年始 (12月29日から1月3日まで)

交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道菟濃インターから約15分、津インターから約10分
※新県立博物館建設工事のため駐車場が6月より一部使用できなくなりますので、駐車場の混雑が予想されます。なるべく公共交通機関でお越しください。

三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL : 059-233-1130 FAX : 059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>
E-mail : frente@center-mie.or.jp

企業のみなさまへ

みんなが働きやすい職場はみんなが働きたい職場！

講師料無料で職員研修に伺います！

フレンテみえでは企業へ出向き、男女共同参画についての学習を要望に応じた内容で提供しています。「なぜ男女共同参画が必要か？」「企業にとって女性も男性も働きやすい職場づくりがどんなメリットがあるのか？」についてお伝えしています。育児・介護休業法の改正など、企業にとっても働き方改革が求められています。フレンテみえからの学習情報でまずは今求められる働き方を一緒に考えていきませんか？

役立つ最新情報をお届けします！

登録いただいた企業へ男女共同参画の情報を定期的にお届けしています（年6～7回）。また「男女がいそいそと働いている企業」三重県知事表彰式を行う男女共同参画フォーラム(11/12(金)、13(土))では各企業の取組情報をパネル展示としてご紹介しています。登録は無料です。詳しくは左記フレンテみえまで。